

蚊帳生地を用いた衣服の新たなデザイン展開

—生地特性に応じた縫製条件の検証—

岩村 真優

[指導教員: 武庫川女子大学講師 池田 仁美]

1. 研究の背景

現在、国内の伝統織物産業は衰退の一途をたどっている。そんな中、近年では伝統織物の新しい用途として、伝統織物を用いたアパレル製品が販売されるようになったが、そういった衣服は40代半ば～60歳のミセスおよびシニア世代¹⁾をターゲットとしたものがほとんどで、20代半ば～30代半ばのヤングアダルト世代²⁾に向けられたものは無いに等しい。

しかし筆者は、これからの時代を築いていく若者にも伝統的な織物の魅力に気付いてもらうことで新たな世界が切り拓けると考え、伝統織物産業の新たなスタートが切れるよう本研究に取り組んだ。本研究では、日本国内において土地の気候風土や歴史的背景から産地に独自に発展した織物を広く伝統織物と定義づけ、奈良県の蚊帳生地に着目した。

本研究の目的としては、蚊帳生地の既存の衣服デザインの改善点をあきらかにし、若者に対する衣服デザインを新たに展開することとする。また、デザイン展開に際し、蚊帳生地の布地特性に応じた縫製条件を探るため、諸条件を変更しながらサンプルを制作して段階的に比較検討し、理想のデザインを実現するために必要な条件について考察する。

2. 蚊帳生地について

蚊帳生地の定義としては「風は通すが蚊は通さない織目の粗い布³⁾」とされている。この織り目の粗さが最も大きな特徴で、夏場の暑さにあわせて蚊を通さない程度に、通気性が考慮されている。そのため、製織中の糸切れを防ぐ目的で糸にはでんぷん糊が付けられ、織りたての生地は糊の影響でパリっとした硬い質感に仕上がっている。糊は使用・洗濯を重ねるうちに落ちていき、次第にガーゼのような柔らかい風合いに変化していく。

3. 蚊帳生地を用いた既製服の特徴の整理

3-1 整理方法

実際に販売されている蚊帳生地の既製服を、20代前半の女性がターゲットの衣服寸法を基準アイテムとしたマップに配置し、比較することでその既存の蚊帳生地の衣服の特徴を明らかにした。

3-2 結果及び考察

蚊帳生地の既製服の特徴としては、トップスでは身幅の衣服寸法の数値が高くゆとり量の多いゆったりしたシルエットのデザインが多かった。ワンピースは基準アイテムと比較し

キーワード：蚊帳生地、伝統織物、地場産業、フレアスカート

て、身幅寸法に大きな差はみられなかったがストレートからAラインが多く、身体のラインが出るデザインはなかった。このことからシルエットにメリハリがなくスタイルが良く見えない上、蚊帳生地は織り目の粗さからパターンが直線的なものが多いため、さらにシルエットが綺麗に見えづらい。またボトムスのウエストが全てギャザーであったことに関しても、直線的なパターンで効率的に縫製できるからだと推測できる。しかし生産面では有効であるとしてもデザイン性には欠けると感じる。これに加えてボトムスの着丈は短いものが多く、この特徴は20代女性には受け入れられ難いものであると考える(図1)。



図1 蚊帳生地スカートのウエスト及び着丈寸法による基準アイテムとの比較

4. 蚊帳生地使用に関しての若者の意識調査

4-1 調査内容

20代女性31人を対象とし、伝統織物に関するイメージや蚊帳生地を用いた衣服を着る際に、どのようなデザインを好む傾向にあるのかアンケートによる調査を行った。

4-2 調査結果及び考察

回答者の20代女性の多くは伝統織物や伝統工芸に関して自身とは遠い存在という考えを無意識のうちに持っているものの、長く使えるものづくりに対する関心はある傾向が見られた。伝統織物を用いた洋服に関して回答者の過半数が「欲しい」「やや欲しい」と回答したことから20代女性の層にも伝統織物を用いた衣服の需要が存在することが分かった。

一方で回答者が蚊帳生地を用いた衣服のデザインとして好ましいと答えたデザインは、現在販売されている蚊帳生地の既製服の特徴とは全く異なるものであり、スカートに関しても着丈の短いギャザースカートではなく、長い着丈のフレア

スカートが最も好まれることが明らかになった。

5. 蚊帳生地のフレアスカート制作

5-1 蚊帳生地の生地特性

本研究で使用する蚊帳生地は4種類で、それぞれ生地A、生地B、生地C、生地Dとし、それぞれの生地特性を表1にまとめた。

表1 蚊帳生地の生地特性一覧

試料名 生地方向	生地A		生地B		生地C		生地D	
	たて	よこ	たて	よこ	たて	よこ	たて	よこ
縮率	7.4	7.7	9.1	7.6	9.5	8	8.6	8.8
手洗い後の 寸法変化率 (%)	-4.6%	-3.8%	-6.7%	-11.5%	-5.0%	-6.7%	-2.3%	-5.8%
重ね枚数1枚 寸法変化率 (%)	-5.0%	-11.7%	-9.2%	-14.6%	-6.3%	-7.1%	-6.7%	-6.7%
生地状態	洗う前	洗った後	洗う前	洗った後	洗う前	洗った後	洗う前	洗った後
ドレーン係数 (%)	75.243	74.793					75.977	74.888
透気性 (cm/cm/s) (重ね枚数)					371.75 (4枚)	384.1~ (2枚)	384.4 (5枚)	384.1~ (4枚)

蚊帳生地は生地によって織密度や寸法変化率が大きく異なっていることが明らかになり、他の生地特性においても生地によって差がみられた。そのため蚊帳生地を用いて衣服を生産する際には使用する蚊帳生地の特性を十分に把握する必要があることがわかった。

5-2 蚊帳生地のフレアスカート制作による縫製条件の検討

蚊帳生地を用いた衣服の新たなデザイン展開として、裏地付きフレアスカートの制作を試みた。目標としたスカートの形状は、シーチングで縫製したスカートと同程度のものになることとし、外観上では透け具合や洗後の製品状態、生産面では縫製しやすさについて検討した。まず9号サイズの半円フレアスカートのパターン³⁾を用いたサンプルAから制作し、サンプルAで改善が必要な縫製条件は、その原因および改善内容を検討した。これを「改善条件」とする。改善が不要であると判断した部分は、「採用条件」(図中○印)とし、次のサンプル作成においても変更せず踏襲した。これをサンプルD1まで繰り返し行うことで、蚊帳生地を用いたフレアスカートの制作を行う上で最適な縫製条件を明らかにした。最後にD1の条件で重ね枚数のみを変更したD2の検討を加えた(図2)。

まず、蚊帳生地を用いてフレアスカートを制作する際はパターンを前後身頃各3パーツの6枚はぎで縫製を行った方が、バイアス方向への伸びが軽減されたことでスカート全体

のバランスを保つことができた。裏地の着丈寸法では表地である蚊帳生地が洗った後に約3~4cm収縮することを踏まえて、あらかじめ着丈寸法を短めに設定しておく必要があった。脇の縫い代は割ってから縫い代を折り込んで端ミシンをする処理方法が、手間と時間はかかるが生地への馴染みも良く適しており、本研究ではこれを採用した。縫い代幅はサンプルB~D2まで2cmを採用したが、重ね枚数が1枚や2枚の場合は生地の厚み分から1.5cmでも対応できると考えられる。裾の縫い代処理は、三つ折りや縫い代幅が大きくなると手洗い後に捻れがみられるため、幅1cmの共生地のバイアス布での処理が最適であった。ただ脇の縫い代幅同様、裾のバイアス布に関してもサンプルD2の重ね枚数4枚の場合、布幅が1cmであるとやや生地が合わせにくくなりバイアス布がほどけやすくなったため生地の重ね枚数に応じて細かい調整が必要であることが分かった。このように同じ生地を用いても重ね枚数によってその縫製条件は適宜変更し対応していかなければならないことが明らかになった。

6. 結論及び今後の課題

本研究では、伝統織物を筆者と同世代の女性にもさらに知ってもらうために、日本の伝統織物の一つである奈良県の蚊帳生地を用いたデザイン展開を試み、まだ生産・販売されていない蚊帳生地のフレアスカートの生産は可能であることを明らかにした。しかし、若者にも親しみやすい衣服を展開するためには、他のカテゴリーのアイテムの試作にも取り組む必要がある。また今回取り上げることでできなかった着丈に関する問題もあり、今後取り組むべき課題は山積みであるが、その課題を全て解決すれば、若者に向けた蚊帳生地の衣服を展開する意義は必ずあると考える。

参考文献

- 1) 菅原正博・本山光子共著：ファッション・マーケティング，ファッション教育社，1999
- 2) 芸術新潮，新潮社，2012年6月号，温故知新①蚊帳生地の夏服
- 3) まるやまはるみ：誌上・パターン塾 vol.2 スカート編，文化出版局，2016

		サンプルA	サンプルB	サンプルC	サンプルD1	サンプルD2
トルソーでの着用写真 (手洗い回後)						
前枚枚数	身頃	1	1	○2	2	4
	ベルト付	1		2	2	4
パーツ数	前スカート	1		○3	3	3
	後ろスカート	1		○3	3	3
着丈(cm)		58	58	58	○58	58
脇	縫い代幅(cm)	1	○2	2	2	2
	縫い代処理	4: バイアステープで留め 2: 割って折り込み端ミシン		割って折り込み端ミシン	割って折り込み端ミシン	割って折り込み端ミシン
裾	縫い代幅(cm)	2	2	1.5	○1	1
	縫い代処理	完全三つ折り		○共生地のバイアス布	共生地のバイアス布	共生地のバイアス布

図2 サンプルA~D2の縫製条件一覧